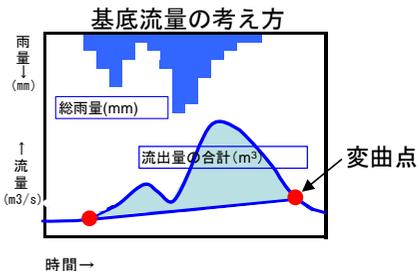
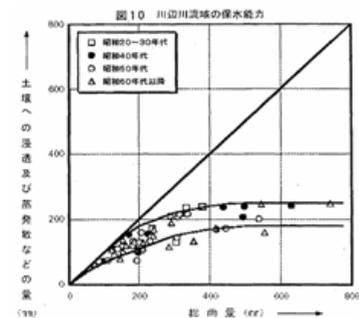


基底流量の分離方法には様々な手法があるが、第2回小委員会資料では、以下の2つの手法を用いたグラフを掲載

第3回小委員会資料では、基底流量の考え方を住民討論集会で使用したものとした。

第2回小委員会資料 掲載グラフ

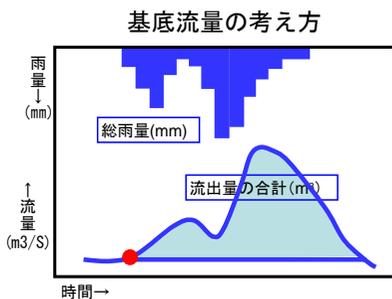
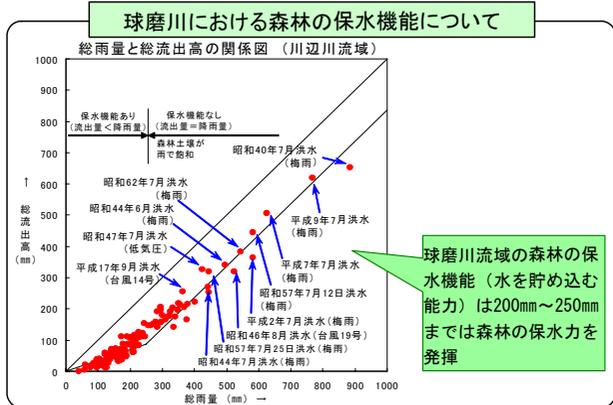
資料3-1 P5



○基底流量の分離方法
洪水毎に洪水立ち上がりと低減期の変曲点にぶつかる様にする分離方法

「森林の保水力の共同検証」に関する主な主張(概要)
(平成16年12月17日)P44抜粋

資料4 P2

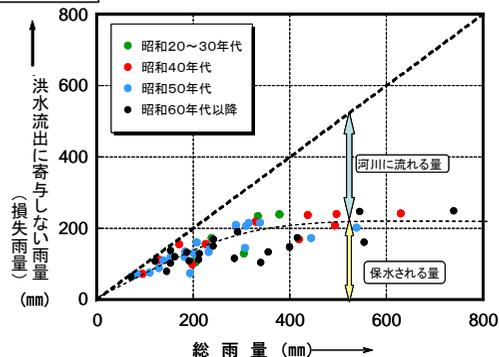


球磨川流域の森林の保水機能(水を貯め込む能力)は200mm~250mmまでは森林の保水力を発揮

○基底流量の分離方法
洪水初期の流量を基底流量として一定で与える(水平分離法)。

第3回小委員会資料 掲載グラフ

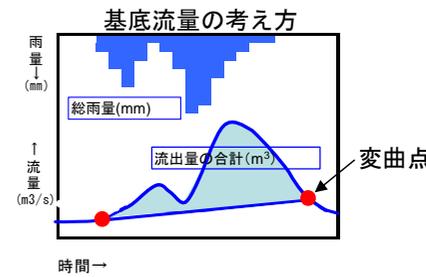
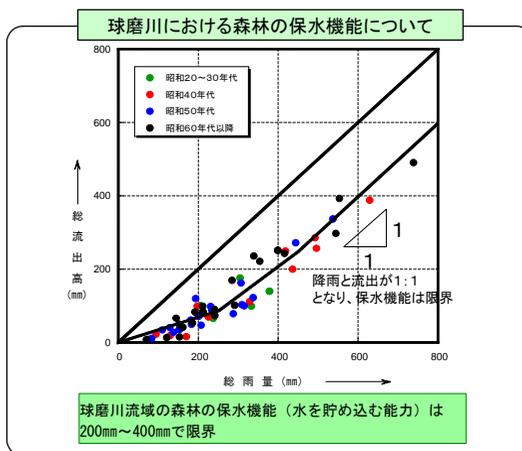
資料3 P1



洪水流出に寄与しない = 総雨量(mm) - 総流出量(mm)
雨量(損失雨量)

縦軸を損失雨量とするか、総流出高とするかの違いで、データ等については、全て同じものを使用

資料3 P6、資料4 P6



○基底流量の分離方法
洪水毎に洪水立ち上がりと低減期の変曲点にぶつかる様にする分離方法

どちらの分離方法も一般的に用いられるが、どちらの考え方も総雨量と総流出高の関係については、同様の傾向を示す。